



株式会社オジックテクノロジーズ

代表取締役社長 金森 秀一

## マインドリセット

昨年の今頃はこれから迎えるラグビーワールドカップ（RWC）と女子ハンドボール世界選手権の二つの世界大会にワクワクしていた方が多かったと思う。私自身も念願のRWCの日本－スコットランド戦のチケットをゲットし興奮していたのを思い出す。ところが今年は打って変わってコロナウイルスとの戦いだ。リーマンショック以上と言われる危機に事業継続が厳しい企業も出てきている。3～4年ごとに大きな危機がいろいろな方向から襲ってくると感じている人もいるだろう。このような危機に備えた経営ということでは松下幸之助氏のダム式経営が頭に浮かぶ。「事業が好調な時にはダムに水を貯めるように利益を着実に内部留保し、事業が思わしくなくなってきた時にはダムの門を少しずつあけて水を供給するように蓄えた資金で不況を乗り切っていく」という考え方だ。ある金融機関が主催した講演会の席上で会場からの「どうしたらダム式経営がやれるのか？」という質問に「それはわてにもわかりまへんのか。ただ、やろうと思わなあきまへんな」と幸之助氏が答えたのは有名な話だ。期待外れの回答に聴衆の失笑を買うが、会場にいた創業間もない京セラ社長の稲盛和夫氏は衝撃を受ける。稲盛氏の京セラフィロソフィーには「強烈な願望を心に抱く」が盛り込まれることになる。強く思うからこそ難題への対応策が次々と浮かぶものと述べられている。KDDIの創業や日本航空の再建もこの「思い」からスタートしている。「なりたい」「できる」というマインドリセットが重要であり実現への第一歩なのだ。

「RWC通算成績が1勝21敗2分、外国チームに勝てない」とレッテルを貼られていた日本をマインドリセットさせたのが2012年に日本代表ヘッドコーチ（HC）に就任したエディ・ジョーンズだ。「日本代表にはスピードとスキルにポテンシャルがある」「ボールを速く動かし、パスとランで自分達が試合のテンポをコントロールする攻撃ラグビーを展開する」と代表選手を鼓舞し「攻撃ラグビーの戦術実行のために世界とフィジカルで互角に戦い、フィットネスで上回る」と世界一過酷な練習を課した。チームが変貌していく姿に「未来像を画くのに重要なのは目標を明確に立てる事」「できない理由を探すより、何ができるかを探すべきだ」とインタビューでは答えている。明確な戦略と限りない努力が2015年のRWCにおいて日本が優勝候補の南アフリカをノーサイド直前の逆転トライで破るという快挙を作り上げた。昨年の日本大会ではこれをベースにジェイミー・ジョセフHCのもと、さらに過酷な練習とアンストラクチャーからの展開やオフロードパス等の高度な戦術で予選を全勝で通過し、決勝トーナメント進出を果たして日本中に元気を与えてくれた。

コロナウイルスの影響で2020年は大変革の年になってきている。マインドをリセットして新たに目標を定め実現に向けて歩を進めたい。コロナの終息のため皆で協力し平穏な日常を取り戻すことを願う。